発行　全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内３−２−２
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03-283-7847
編集　広報委員会

翔生

（しょうせい）

昭和63年（1988年）
11月１日号
通巻　第５号
（年２回　３月・10月発行）

11月18日は維新の地へ集まろう、全国大会は山口で──。

地域経済のニューリーダーを目指す我々商工会議所青年部会員が一堂に会す第８回全国大会を明治維新発祥の地山口県は西の京と呼ばれた「山口市」で11月17、18日の両日盛大に開催されます。

日本海と瀬戸内海に三方を囲まれ、日本を代表するカルスト台地「秋吉台」や世界有数の鍾乳洞「秋芳洞」など自然に恵まれ、幕末の志士を生んだ松下村塾のある萩、古くから交通の要所として栄えた下関、そして名湯「湯田温泉」を擁す開催地「山口市」、自然と歴史と出湯と海の幸、今秋の山口県は青年部会員にとって一味違った旅情を提供します。

「翔ろうふるさと21世紀への翼」をスローガンに、志を同じくする青年経済人が、研修研鑚を目的に、そして相互交流を深めわれわれの進むべき方向を確認する意義ある大会にするため鋭意準備をすすめております。

さて今大会は何かと話題性に富んだものになりそうです。石川六郎日本商工会議所会頭も多忙の中、式典へ出席をされることとなり、より運営自体もこれまでの殻を破ったかたちとなっています。

それはまず第１に結成式を式典前日の17日午後六時から開催することです。平日でもありますし、遠方からお越しになる皆様にできるだけ負担の少ない日程計画として組まれたものです。また式典は緊張感があるますが、とりあえず旅の疲れをいやし、お互いが親交を深めた上で、なごやかに式典にのぞみ、意義あるものにしようという狙いです。アトラクションも多く、このほかには下関市出身の演歌歌手、山本譲二が登場します。郷土の誇りというか、快く出演に応じてくれた彼の歌声が皆様の心に響きわたるものと思います。

式典は18日午前10時から開催。前日の結成会と、二次会で湯田の町をから歩かれた皆様が、未来の青年部会員の姿にもどるときです。全国商工会議所青年部連合会会旗の入場で幕があき、関係各位のごあいさつや祝辞をいただいて、心新たに事業へまい進する決意を固められたらと思います。

午後からはTBSスポーツコンサルタントの衣笠祥雄氏を迎えての記念講演会です。講演は約１時間半、野球の醍醐味や裏話などが多く、聞けるかもしれません。このほかに1988ペプシトーナメント開催コースとして知られる下関カントリークラブ万年池コースのゴルフ、そして山口県内の観光地を網羅する観光エキスカーションも用意しております。

全国から会員の皆様をお迎えしての大会を私たちが心がけてきたことは、「手づくり」であること。そして不足するところは心でカバーです。「もう一度山口へ行ってみたい」と感じてもらえるように頑張っております。しかしその前に「まず一度山口へ行こうじゃないか」といわれたい。全国各地より多数の会員諸兄が参加をされますように心からご案内申しあげます。

おいでませ山口へ。

おいでませ山口へ

日本一の100万ドル夜景

第八回全国大会 会長あいさつ

大会会長　藤尚毅

翔ろうふるさと、21世紀への翼のスローガンの元に、昭和六十三年度第八回全国大会を、十一月十七日㈭十八日㈮に、西の京、やまぐち、歴史と文化のまち、県都山口で開催出来ますことは、山口県商工会議所青年部連合会として、この上ない光栄に存じます。

さて、わが国経済情勢は、高度情報化社会や国際化と共に、産業構造の転換へ向って、足早く進んでおります。各地青年部諸兄に於かれましては、青年経済人としての、社会的使命を、強く認識されると同時に今我々は何をすべきか何を求められているか、親会議所のご指導の元に、日々研鑽を重ねられていることと思います。青年とは、若さとは、時代に敏感で豊かな感性と情熱、そして勇気ある行動ではないでしょうか。明治の日本を変えた若者達が、幕末に松下村塾に集い、吉田松陰、高杉晋作と共に、明治維新への勇気ある行動を興した地、維新の地、長州山口へ、集え、全国の青年部諸君、そして自分達の足元をしっかりと見つめ、自の企業の活性化と、地域社会の開発、そして、すぐそこまで来ている、日本の21世紀へ向けて、我々の進むべき道を大いに語りあい勉強しようではありませんか。

おいでませ山口へ。

山口県商工会議所青年部連合会会員一同

大勢の青年部会員諸兄の、参加を心よりお待ち申しあげております。

これが下関のふく

躍動する日本列島青年部

上砂川商工会議所青年部は"今"

北海道上砂川青年部

昭和六三年四月の定例総会において、私、代付会長に就任しました。この、中間地域の発展と活性化を計るべき努力を致したいと思いますので皆様のご指導ご支援を御願いします。

さて、昨年七月第八次石炭政策により閉山第一号となり基幹産業を失なってしまいました。しかし、十二月の国会で世界最大の地下無重力環境実験センターの設置が上砂川町に決定されました。施設建設費は総額五〇億円で、昭和六三年十月に工事着工、昭和六五年上期に完成で試運転、下期から本格運転を開始するものです。

当、青年部も昭和六三年度の事業の一環に取り入れ活動を展開し早期実現をめざし運動をしているところです。この地下無重力環境実験センターに際し、その動きを若干紹介しよう。六月十六日、実験センターの運営母体となる第三セクター会社の設立をめざし、札幌通産局や道、道経済連合会、道商工会議所連合会、道地域技術振興センターの五者が同センター検討委員会を発足させることを決めました。札幌で会合、六月十七日、上砂川町振興推進会議を発足させ、地下無重力環境実験センターの推進はもちろんの事地域振興を計る目的で発足しています。六月二十日、札幌にて会合、地下無重力環境実験センター検討委員会が発足しました。

この目的は、同センターの利用計画などを策定するこの会議は札幌で初めて開かれました。席上通産省や三井石炭鉱業、東芝などがこれまで検討して来た結果を説明されました。成、六月二十一日、上砂川に地下無重力環境実験センター検討委員七十余名が現地視察に訪れました。地元では看板やステッカー、横断幕をかかげ地元の熱意を充分検討委員に知ってもらいました。

青年部は、この実験センターをベースに地域内の環境整備に力を傾注し行動力を発揮し地域商工業の発展と街づくりのため活動をめざしています。

当、青年部の昭和六三年度事業計画を紹介します。（昭和六三年四月一日から昭和六四年三月三十一日まで）

活動の内容

＊総務委員会

1、街づくり計画の推進

2、会員の資質向上のための講演会、講習会の実施

3、会員加入の促進

4、商工会議所事業について協力

5、調査、研究の推進

＊地域開発、無重力特選委員会

1、地下無重力環境実験センター建設に関した推進

2、行政との関係全般（町行政）についての研究

3、地域環境整備に関した推進

以上について、目的を達成するため全員一同心を一つにし活動をしています。

以上

「日本一の芋煮会」の実現に向けて

山形県山形青年部

山形商工会議所青年部は特産の山形鋳物で直径5mの大鍋を作り、秋の風物詩として全国に紹介されている「芋煮会」を日本一の規模で実現しようと夢を描いております。

しかし、日本一の芋煮会も目的、資金、運営、諸製作技術面など青年部独自の事業としては多くの困難が予想され、現実離れした発想に青年部内部からも実現を危ぶむ声や、対外的な協力に消極的な意見も出されてきました。

各地の町おこしや活性化運動の事例を見れば、その土地の風土や文化を抜きにしたイベントは考えられません。基本的に市民の郷土愛や連帯感が成功へのキーワードになります。

企画段階でいかにピーアールしコンセンサスを得て多くの市民に理解と協力をしていただけるかが重要になってきます。組織を前提としたイベントの場合多くの市民に参加協力をしていただき市民のため市民の手による祭りに育てていくことが大切です。祭りによって人の和や連帯感が生まれ世代を超えた交流は、これからの町づくりにとって大きな資源となり、その町の大きな財産となります。我が町"山形"の実現に多くの市民によるコンセンサスを深める上で全市民参加型の祭りは不可欠です。

幸い山形には百年前から現在まで市民に親しまれている伝統行事の「芋煮会」があります。山形市内を流れる馬見ケ崎川の河川敷で繰り広げられる野趣満点の野外芋煮料理を家族やサークル、職場の仲間などが思い思いに鍋釜と芋煮用材料持参で秋の味と川風を満喫し一日過ごし、その3万人以上の市民が繰り出す光景は壮観の一言でよくマスコミに登場いたします。

この歴史的、風土的に山形らしいイベントを青年部の手によって市民共有の財産として位置づけされ山形を代表する名物の一つに加え、観光に農産物、畜産物の消費拡大と全国へのPRに貢献できればすばらしいことです。何よりも市民のシンボルとして大芋煮鍋が存在し活用されることが、"そう私達の情熱を燃えさせております。

このイベント実現には青年部にとって経験や体験しえなかった対外交渉や準備に数々の困難が山積みされているのも事実です。協力要請や資金援助など私達の熱意と理解、協力参加を呼び掛けるにしても日ごろの交流活動と違い全くの善意を獲得する難しさは一番困難な作業と言えます。しかし不可能に近い夢を実現に向けて一つ一つ解決し、一歩一歩前進していくプロセスが今の青年部にとって貴重な経験となり、会員それぞれの自己研さんと自信に結び付いていくものです。

山形商工会議所青年部は町の活性化の一つの手段として『日本一の芋煮会』を計画し実現に向かって燃えています。全国の青年部の仲間に是非同様の味を体験していただけるようがんばってまいります。

県内各地で頑張っています

富山県青年部連合会

県連のこと

言うまでもなく、この富山商工会議所には、私達、青年部会があります。

同様にして、富山県下の他の商工会議所にも、青年部会があります。

それら8つの青年部会が集まって、「富山県商工会議所青年部会連合会」を組織しております。

各地の青年部運動

さて、県連は、各地の青年部会の横断的組織として、大局的見地から、富山県の活性化を模索しておりますが、その活動を要約していえば、次の通りといえるでしょう。「私たち商工会議所青年部としましては、明日を担う若者がより多く集まり、活発に活動できる場をつくることだと信じています。

そのため、これまで"富山"のもっていたイメージを払拭し異端を受けいれる大きな度量で、もっと自由に個性を伸ばせる土壌づくりが最も大切であると思います。

そして、いま私たちは21世紀へ向けて富山が世界の情報発信基地に変身するため、"富山"の新しい顔づくりとしての街おこし、各種イベントの実施、異業種交流を通してのニュービジネスへの挑戦などさまざまな事業に取り組んでいます。」（青年経営者シンポジューム・基調報告より、昭和63年7月26日）

それでは、県下の青年部会の本年度の活動を、この紙面を借りてご報告いたします。

高　岡

(1)万葉故地めぐり

高岡を知るバス巡りです。一般市民・高岡短大生を中心に大型バスをチャーターし高岡の名所・旧跡・味覚・地場産業などのよい所を見直してもらい、もっと広く高岡をPRしてもらう。

(2)願い七夕

日本三大七夕といわれている高岡七夕を本当の意味で日本一にする企画です。

日本で、歴史の高い七夕に、世界中の著名人の短冊を吊し、世界平和の願いを込めて、飾る。

新　湊

―"日本海国際空港"構想―

日本の国際化、四全総の提言にいう15の国際空港の設置を踏まえ、富山湾岸に国際空港を設置しようという運動です。

富山湾の活用は、日本海側の飛躍にとって、地政学的にみて、重要であるとの認識にたつ運動です。

氷　見

―海岸・河川"清掃"―

海から直接三〇〇〇メートル級の山なみが、眺められる所は、世界で三ヶ所しかない。

そのうちのひとつが、氷見海岸から眺める立山連峰です。

その海岸線の清掃を企画し、21年間継続して、実施しています。

魚　津

―魚津青年サミット―

魚津活性化運動のために「地域開発委員会」を設置しています。

そして、昭和60年から「市民公開シンポジュウム」を開催し、最近では「青年サミット」を開催しました。

砺　波

―公聴会"私たちの砺波、21世紀にむけて"―

チューリップフェアを、もっと魅力のあるものにし、地元の活性化につなげるため広く意見を求め、具体的な施策に取り入れています。

滑　川

―なめりかわ街づくりセミナー―

"街づくり"を合言葉に業務研修、要請研修で、まちづくりを推進しています。

黒　部

―ホットフィールド・ライブインクロベー―

黒部市青年6団体が協同で、黒部に1万人の若者をあつめ、大野外コンサートを実施しました。

国際都市"黒部"をめざし、黒部でチャチャチャにフィーバーしました。

富　山

(1)おわらっちゃ祭り

"サンバ"と"越中おわら節"を核にして富山市民参加の夏祭りを実施しています。今年で11年目です。

(2)富山ホームステイ

友好都市の子供達を、当部会の会員の自宅に招待し、富山の良さを知ってもらうという活動です。昨年から始めて、今年で2回目です。

国際交流の場ハロウィン開催

埼玉県大宮青年部

大宮市は、首都圏の核都市、埼玉県の中枢都市として、優れた交通条件と交通の拠点性を活かした緑の経済都市としての都市基盤整備が着々と進行しております。

このような変化の中で大宮商工会議所青年部は、昭和六十一年四月に設立いたしました。現在会員数は約六十名と少数精鋭にて、組織、街づくり、経営戦略、教養研修の四委員会の活動を中心として、年一回広報誌の発刊を行う広報部会、ゴルフ部会、そして最近青年部によって始められた茶道研究会と幅広く事業展開しております。

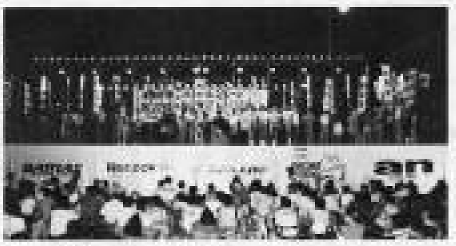
今年度の活動としては、総務委員会が、設立二ヶ年の経過を踏まえ、規則規定などの見直しと研究、

街づくり委員会は、二十一世紀を迎えリニアモーターカーなど新時代の交通問題の研究を復活、経営戦略委員会は、事業経営に具体的に活用できる経営手法の実践的研究と提言、事業推進委員会は会議所事業への協力と企画及び提案と活動しております。

このような活発な事業によって培われた、団結力を基に、国際化の促進として、市内在住の外国人と市民との交流を深める第一回市民ハロウィン祭を企画十月五日、各国子供達によるパレード、仮装コンテスト、パーティー等実施し大会の一大行事として盛上げて行きたいと会員一丸となって取り組んでおります。

全国の若者が鈴鹿の夜を満喫!

三重県鈴鹿青年部



8時間耐久レース前夜祭ということで、7月30日(土)午前0時から、鈴鹿サーキット西駐車場で行われた、鈴鹿商工会議所青年部会主催の「クイズ大会」は大盛況の内に幕を閉じ、8耐で集まった若者の想わぬ安らぎの場となったようである。折しも天候に恵まれ、身体のホテリから夜深くにテントから這い出た者にとって、絶好のイベントともあいなった訳である。

会場から先に女性を選出しておいて、後から男性有志一人を選出して行われた「8耐でデート」は意外に多くのカップルがお互いにハートのランプをつける光景が見られ、真夜中だというのに黄色い声が飛びかう事もしばしば……。

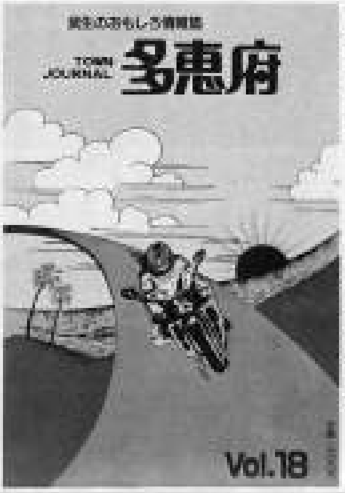
また、その後に行われた「ウルトラクイズ大会」では、北海道から沖縄までの男女各一人ずつ選出し、各都道府県のノボリを持って会場に上がり、クイズに○×形式で答えてもらったものだが、「鈴鹿市長は、衣斐賢譲氏であるが、彼は市長に就任される前はお寺の住職さんであった」という質問があったが、ここで肝心の三重県勢がYESとNOに分かれ、ノッケから大穴にはずれたウルトラクイズとなったのである。

優勝者には、来年の8耐入場券とペアの宿泊券が進呈され、前夜祭の宴が夜中の3時すぎに無事終了したのである。ちなみに、イベントの司会を勤めた伊藤實青年部会長をはじめ青年部員は、疲れきってはいましたが、イベントの成功に満足げでした。

武生のおもしろ情報誌 TOWN JOURNAL 多恵府

福井県武生青年部

武生商工会議所青年部では、タウン誌「多恵府(たけふ)」を発行しております。本誌は発行18号目を数え、当初の商業マップから、回を重ねるごとに、タウン誌としての体裁を整え、18号からは、ページ数も24ページから36ページへ増ページされて、現在18号を発行するまでになりました。人口八万人未満の市でありながら、発行部数も現在二、五〇〇部を誇ります。青年部のプロデュースとなる



く、どうしても無料配布となりがちですが、本誌は、市内各書店の御協力のもと市販されており、タウン誌としてのグレードをもちつつあります。

メンバーは実動7人余りですが、平均年齢が30歳未満で、18号のサブタイトル通り「武生のおもしろ情報誌」として、編集作業に取り組んでおります。とくに、レイアウトの決定、編集の作業に入ると、週4日の委員会召集も珍しくありません。毎号のおもしろみを出すため、とくに制作内容についてマニュアルを決めていないこともあって、編集作業は、困難をきわめますが、委員会メンバーの若さで乗り切ってきました。

このパワーのおかげか、市民の評判も良好なものを頂いており、委員会メンバーも、次回発行分の企画に力が入っています。

また、本誌は、完全独立採算制を敷いており、一回あたりの発行費用40万を、青年部員をはじめとする広告料で賄ってきました。将来カラー化、増ページ回数、取材エリアの拡大等、多くの問題を抱えておりますが、今後も、市民に親しまれつつ、地域の再発見、再評価、総意等のおこなえる、実力がある情報がある、タウン誌へと志向していくことは間違いありません。本誌が、地域活性化の一翼を担うことが、タウンジャーナル委員会の夢であります。

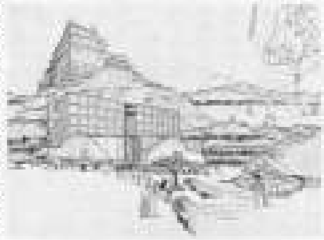
人の集う街づくり

島根県米子青年部

昭和34年6月に誕生した米子青年部は、本年で満30才、現在、記念事業の準備を進めているところですが、過去の実績報告にとどまらず青年部らしい未来に向けての提言等を考えています。当青年部ではこの数年、市民の森構想(城山跡の利用等について)や、コンベンションホールの建設運動を展開していますが、本来の目的は、「人の集う街づくり」であり、人が集うことにより地域の活性化を図ることにあります。「人と人とが会うために集まる」、「人を集める」ことが産業として成り立つ時代が来ると予想し、米子という都市の立地条件を最大限に生かした街づくりとして提言したのです。

米子市は山陰の中央に位置し、古くから陰陽交流の要衝として栄えて来ました。昭和63年4月の人口は13万1千人、面積98.46㎞²であり、山陰の市の中では人口で上から3番、面積で下から3番というところにあります。このような土地のない、人口密度の高い地方都市が生きのびてゆくには、周辺都市を含んだ商業や観光を考えなければなりません。幸いにも米子という町は古くから他地域からの流入が多く、よそものをこばまない土地柄で、開放的な風土であります。そして、国道9号、180号、181号、431号、JR山陰本線、伯備線の交わる交通の中心地であり、空港もあり地方都市としては有利な条件がいっぱいです。中国横断自動車道の工事も進み、益々大都市との時間距離が縮まっている今日、この立地を生かし、コンベンションシティーとして発展すべき時が来ているのです。

山陰の玄関口、中国大陸との窓口として、各種国際大会、学会の開催地、周辺地域と一体化したリゾート基地、ファッション性あふれる商業都市として発展して行くことが、一地方都市として生きのびる道なのです。当青年部は今後も地域活性化のため将来展望に立った活動を進めてまいります。



会員講師の月例会

徳島県鳴門青年部

鳴門商工会議所青年部では、発足以来四年目を迎えて一段の飛躍をしてゆきたいと会員一同張りきっています。近頃の月例会を盛り上げて出席率を高め、会員の増員をし、青年部のパワーアップをはかって商工会議所の行動隊として各種行事に積極的に参加し、実績を積み上げるとともに、市などの行う行事等にも意欲的に参加して市の活性化に寄与したい、と強く思っております。そのためにも、基本的な体制作り、組織作りをしっかりすることが優先すると考え会員同志のコミュニケーション作りに努力しています。まず、出席率一〇〇パーセントの月例会を目標に担当理事、会長、副会長一丸になって取り組んでいます。

今回の皆様に当青年部の月例会運営の一端を発表させていただきます。できますならばご意見、ご感想等をお聞かせいただければ幸いと思います。当青年部ではいろんな分野で活躍しておられる講師(経営コンサルタント、アナウンサー、司会者、生活指導、元スチュワーデス、落語家、県議会議員、市長)を招いてそれぞれ有意義な講演を拝聴してまいりましたが会員諸氏の反応としては今一つというところでした。が、ある会員の発案で会員が講師になってその会員の人生観、価値観、事業理念、顧客管理、販売方法、先代からの事業継承等を自由に話してもらうようにしてみたところ話し方は下手でも同じ街で軒をつらねて仕事している同年代同志なので、なぜか自然に話の中にとけこみあい質疑応答にもつい熱が入って、定刻に打ち切るタイミングに苦慮する時もあります。同業者が少ない事もあって互いに本音で話し合えるということが盛り上がりをもたらすポイントになっていると思います。又、ときとして会員の発言の中から問題解決のヒントを得たり、すばらしいアイデアを拾うこともあったりして鳴門商工会議所青年部は増々盛り上がろうとしています。

鹿島知っていますか。ガタリンピック知っていますか?

佐賀県鹿島青年部

鹿島、知っていますか。

ガタリンピック知っていますか?

東京のスナックで出身県を尋ねられ、佐賀県の鹿島だよと返答したら佐賀県?鹿島??というように、だれもが知らないと反対に、私が恥ずかしい経験がありまして、こういうような私が町、鹿島をなんとかして、名を売り出す為にはじめたのが、ガタリンピックなのです。

今年は5月1日に第4回目を終え、マスコミ等で報道されましたので、ご存知かもしれませんが、1日で4万人の観客と1500人の選手、23ヶ国から150名の選手団という国際色豊かなイベントとなり年々盛りあがりをみせています。

このガタリンピックのネーミングの由来といえば干潟でオリンピックをしようということで、ガタとオリンピックを組み合わせたのです。潟というのは、さわったことがない方は想像もつかないでしょうが泥の中を歩いていったら膝まではまりこんでしまいます。そこで有明海では江戸時代から漁師さん達が生活の知恵として、潟スキー(押し板)という幅40㎝、長さ180㎝の板を使って、むつごろう、あげまき、わらすぼという有明海独特の魚貝類を捕っていました。その昔からのならわしの道具を使って競技をやっているのが、今のガタリンピックです。

競技内容は潟スキー(スキーは冬するものだけではないですよ)を使った100m、50m、1000mのタイムトライアル。ちなみに100mの記録は33秒06、最下位は、2分33秒。1000mでは12分45秒、最下位は40分ほどかかり、初心者には難しいものです。

他に競歩、自転車、パタクライ、綱引き等などの競技があります。

有明海の潟は、長崎県、佐賀県、福岡県、熊本県の4県にまたがって延べ200㎞の沿岸で、満潮時には最高海岸で5~7m、干潮時には沖合い5㎞まで陸地化し、その陸地化した所が全部、潟なのです。

このように自然変化の激しい海ですが、漁獲量は日本の干潟面積の50%をしめる海苔の生産。この自然豊かな有明海で採れる海苔、およびガタリンピック。我々はこの有明海を守り、又利用しつづけていく覚悟であります。

TOP CONVERSATION

会頭対談

Takashi Kawakita

東京外国語大学助教授

川喜多喬先生

PROFILE

昭和23年大阪生まれ。東京大学文学部卒業後、同大学大学院博士課程修了。茨城大学助教授を経て、東京外国語大学外国語学部助教授を務める。高齢・高学歴化時代の人事戦略（通産省企業行動課編、産能大出版）ＦＡが工場をどう変えるか（通産省企業行動課編、能率協会）などの共著がある。

企業の発展と豊かな地域社会の構築が青年部の目的

川喜多　二、三十年、日本経済が非常に大きく変わりました。円高ということで、あちこち地場産業、その他、地域産業は危機だということで、地方の商工業者は随分ご苦労があったかと思うのですが、ある意味ではみごとに商工業者の努力で内需拡大に転換されて、おかげさまで日本経済は全体として、非常にいい状況になってきていると思うのです。

しかしこれは全国の数字の話でありまして、それぞれ地域で、商工会議所の中でいろいろ努力され、苦労されている立場から見ますと、今、地域における商工業者の役割はどうあるべきかという話から、会長さんにまずお話をいただければと思うのですが、どう見ておられますか。

萩原　私も十四年間経営者ということで、三十名ぐらいの社員を擁して、建設資材の卸と施工をやっているわけですが、そういう仕事を通しての国際経済を抜きにして、日本経済、日本経済の中でまた地方の我々の小さな都市の一事業所が [illegible]

リーダーの養成は新たな事業活動を通して

川喜多　まさに青年部というのは次代の商工会議所のリーダーを育成する使命を持っていると思うのですが、全国の青年部の連合会ができまして五年目を迎えておりますが、ちょうど区切りのいい時期で、新しい青年部活動、特にリーダー養成ということで、何かお考えはございますか。

萩原　青年部の目的の中には、大きくは三つあるかと思います。[illegible]

異業種、同業種の交流がこれからの企業を支えていく

[illegible]

女性の感性が不可欠な要素になっている

[illegible]

地方の時代が胎動してきた

[illegible]

経営が世代交替をスムーズにする

[illegible]

企業も会議所も積極的

[illegible]

TOP CONVERSATION

商青連

萩原会長

Kousho Hagiwara

式典よりも中味の濃い交流を

[illegible]

青年経営者は若者をどんどん取り込め

[illegible]

老大国日本にしてはいけない　早目に経営者精神の教育を

[illegible]

をやる必要があって、それは地域でやられるときに、中学校、高校の社会科の教科書を青年経営者の立場から読んで見る。地域の産業だとか、経済だとか、中小企業だとか、経営者精神というのは、どう取り上げていただけるか。

昔は修身で、悪かったということもあるけれども、それぞれの地域を立派にした、経営者として成功した人の話が教科書の中に出てきたのです。今は中学校、高校の教科書で、経営者として大成して地元に産業を興した人の話が、全然出てこないのです。

藤原　寂しいですね。

川喜多　だから経営者精神の教育というのを、既に青年経営者になったとき出始めるのではなくて、地元で育っていく若者たちに学校教育の中で教えるという活動を、ぜひやってほしいなという気がするのです。

アメリカなんか見ていたら、中学校あるいは高校クラスからお金を与えて、マネーゲームをさせたり、株式投資ゲームをさせたり、ビジネスゲームをさせたりするわけです。それで経営者精神感覚を養うことをやる。今やアメリカのように資本主義の牙城だけではなくて、社会主義国も中国、ソ連を問わず、いかにして経営者精神を育てるかという時代になってきているわけです。

だから中小企業の経営者が、下積みではなくて、イノベーターとして、世界じゅうで考えられてきているわけだから、中小企業に関する、あるいは経営者に関するイメージ転換をやってほしい気がするのです。

戦後、復興期に日本の現在の状況をつくり上げた中小企業経営者たちは、平均して三十五歳ぐらいで事業を創業しているか、事業を始めているわけです。つまり自分の子供が小学校に上がる時期です。若いときに女遊びをしたり、結婚してかあちゃんと遊んでいたりというのがふっ切れて、妻子のために頑張ろうかという。しかも男盛りの真っ最中──女盛りでもあるのだけれども──三十五歳ぐらいでやっている。

そういう中で事業を興した人々が、今、自分の息子が三十五歳はおろか、四十歳を過ぎても五十歳を過ぎても跡を譲らないといって頑張り続けているこの不幸を、何とかして打破しないと、日本経済は沈没する。

内需拡大というけれども、NIES各国からの輸入財でもって、その分だけ外国に職を渡しながら、消費者だけが踊り狂っている状況になってきているのだけれども、NIES諸国の経営者たちの若いこと。韓国に行っても、台湾に行っても、シンガポールに行っても、どこに行っても若い青年経営者たちが、「日本に続け」というので、必死になって働いて、新しいイノベーションをやっている。それはちょうど「アメリカに追いつけ追いこせ」といって、日本が頑張ったときの中小企業経営者と同じです。

だから先進国に日本をしてはいけないという、危機感を持ってやってほしい。「そんなのは悪者だ」と。

藤原　本当に今のニュービジネスでは、若い三十から行っても四二、三ごろまでに、大変な企業規模にして、大分成長しておられる人がいますね。

今の時代は変化していますから、消費者のニーズというか、消費財が大変外国のいろんなものが、簡単に入りやすくなってきているのですね。そこらに結びつき商売して、新しい企業興しというのが出ている若い感覚、それが強いていえば日本経済を支える原動力なのでしょうね。

単純模倣はだめ、創造的模倣でなければ

きのう大阪で研修会を主催して枚方の町、大阪の有力トレンド企業A社を研修してきたのです。ツタヤ書店という、全国に三百五十店ぐらいのチェーン店をもつビデオレンタル業が、大変飛躍的に成長して今大体一キロかいわいで営業員が六人で月商が六百五十万ですか、それが全国に三百店舗つくられている。これも大体八千万くらいあれば、そして一キロかいわいにそういう類型の店がなければ、絶対に成長する。ここ何年かはもうかると。

聞くところによると、ビデオレンタルの場合はすごく大変ですが、仕入れの場合、全国平均の粗利が大体六百本ということで、本屋さんがまるレンタル業、レーザーディスクとかいろんなものを置いて、会員を取って、一キロ範囲で大体二万の会員を確保すると、大変な収益が上がるということで──

それは逆発想なのです。人口が多ければ多いほど、一般の今までの企業の方は成り立っていかないのだ。近所に人がいっぱいいなければ、お店をやっても繁盛しない。その人の逆発想で、田舎町、田んぼの真ん中でもいいというのです。

そういうことで大阪の枚方につくられた実際のお話を聞いたのですが、まさしく時代が、そして日本経済の原動力となるビジネスが、刻々大阪からだんだん地方に行っている。それも急速に進展しているという気がします。

川喜多　例えば東京都内で土地を持っていた業者が、その土地を売って地方に行くつもりなら、十倍の土地が買えるわけでしょう。そうしてもいいし、十カ所に店を出してもいいです。

それから郊外に店を出すっもりなら、百倍の土地が買える。そうすると大駐車場を置いて、大したノーハウがなくても、客があるという所に集まることになっているので、それは戦国時代ですよ。

今まで商工会議所というのは、地域の経済の発展というけれども、地元を発展させるということと、地元しか見ないということとは全然別です。

ところが我々地元の人間関係だけに頼りに、しかも誇りを持ちつつ、地元だけを見て会議所活動をやっていたところがあって、あればだめなのです。地元を発展させるためには、日本じゅうを見る必要がある。

例えばセブンイレブンにしてもらが、今は東京で伸びているビジネスというのは、ほとんどアメリカで生まれたニュービジネスのノーハウをそのまま持ってきているという話でしょう。それは気をつける必要がある。視野を広く持つ必要がある。

しかしもう一つ考えなければならないことは、設備投資には金がかかる。技術革新には金がかかるけれども、人材育成に金がかかるけれども、ノーハウはただなのです。だから盗むという言葉は悪いが、創造的模倣というと格好いいけれども、（笑）それはやらなければだめです。ただ、単純模倣は通じないというのが僕の発想です。

しばしば、ほかの町や特に東京ではやった商売のやり方を、そのまま地方都市に模倣して大失敗しているケースはたくさんある。だから成功事例を学ぶと同時に、失敗事例の研究をやる必要があるのです。「滅び行く町を見てみよ」とか、「滅び行く商店を見てみよ」とか、「滅び去った工場を見てみよ」とか……

高度成長期は成功事例のまねをしていると、同じことをやればもうかるのですが、今は成功事例はそのまま地方でやると失敗するということがしばしばある。だから単純模倣ではなくて、創造的模倣。ただし、ノーハウを盗むのはただだという。

センスのない経営者は伸びない、消費者の感覚を理解しろ

川喜多　青年部の大会に行ったんですが、もうちょっとまともな服を来てこいというのです。

例えば女性たちの新しいニーズに敏感になるためには、自分がもっと格好いいパンツをはいたり、下着をはいたり、格好のいい服を着てくるべきです。自分が人生を楽しんでなくて、人生を楽しもうとしている人々を相手に商売ができるかという──

藤原　ところがよく青年部がお祭の大会で背広の上着を脱いで、ハッピを着ますね。あのあたりはどうなのでしょうね。

川喜多　あれは青年部がちょっとお祭り的要素困気。私はああいうのは興味ないね。

ピエールカルダンの服で、上から下まできめて、最高級のディナーパーティーでもやってみろというのだよ。（笑）

ふだん、飯一杯盛って、茶漬けでガチガチと飯食っていて、グルメの時代に対応できるものかという……。

面白くもあるのだけれども、例えば燕の洋食器の内需拡大で、いろいろ説明に努力されている。ところが燕の市内には洋食で飯を食わせるフランスレストランが一軒もないのです。なぜか。

ふだん米の飯に魚を食っているわけです。それで隣の座敷には美人の芸者がいる。何でわざわざ洋食を食うものか。日本食で十分だし、そういう連中が洋食器をつくっている。

都会の若い女の子のセンスに向いた洋食器を工夫しろといっても、センスが出てこない。経営者自身が日常、ふだんに消費者の感覚を理解しわかっていないと、商品開発なんかできないですよ。

田舎の雑貨店に行ってみる。つるしてある服が汚い服ばかり。出てくる主人がジャージかなんか上から着て運動靴を履いて出てきて、かわいいお嬢さんが「いい服ないかしら」と、あれも東京に行ってしまうよ。

藤原　女の子にはもてないですね。

川喜多　経営者がもてなければ……（笑）

地元での最高の飲み屋、センスのいいママにもてる男というのは、経営者として伸びるのです。

藤原　本日は、多岐にわたってお話しをありがとうございました。

──了──

若年経営者に期待する

浜松商工会議所 会頭
加藤輝隆

ご承知の通りわが国の経済は、60年秋からの円高を背景に、産業界では、産業構造の転換の進展をみ、内需の拡大輸入の促進、輸出産業の内需型など、内外不均衡の改善に懸命な努力が進められてまいりました。政府の積極的な財政政策の効果もあって、景気は、内需を中心に緩やかな回復の方向にあり、昭和63年度も個人消費、民間設備投資とも堅調なことから引き続き、内需主導型で、着実な成長路線を歩むであろうと思われます。

しかしながら、円高によって浮かび上がった、日本経済の課題として、63年度経済白書は、①バランスのとれた国際化の推進、②産業発展の原動力の追求、③真の豊かさの実現、④内需主導型経済の設計図の4つを掲げております。

このようにテーマを絞ると4つになりますが、ひとつ、ひとつを見ると大変な問題ばかりで、産業界をとりまく経済環境は、まことに厳しい状況にあります。こうした厳しい環境変化の中で、企業があらゆる経営問題を克服しながら発展していくためには、若い経営者の皆さんご自身も、経営者としての先見性と決断力、情報収集力などに、一層磨きをかけ、持ち前の行動力を生かし、積極的な事業展開をされますよう望みます。

この中でも、情報収集は、あらゆる分野で優先しなければならないことであると思います。昨今の情報技術革新は目覚ましいものがあり、製造業分野でのFA化、非製造業分野でのPOS、VANの利用など情報処理とネットワークの形成が進み、産業面へ与えたインパクトを考えるとき、種々の業種での取り組み方を研究していかなければならないと思います。

この辺のことになりますと、やはり若い皆さんに、積極的に取り組んで、もらわなければならない事だと思っております。この結果が、ニュービジネスを生み、多角化、業際化を進め、さらに異業種交流等により経済を活性化させる力となってくるのであります。もうひとつ大切なことは、国際化の進展とともに、内外の調和のとれたバランス感覚を大切にしていかなければならないことであります。

現在は、まだまだ不充分であり輸入の促進を中心に、世界の中の日本を理解していただく為に、もっとお互いの文化面での理解をしていくというような気配りをしなければなりません。若い経営者の皆さんには、特にお願いしておきたいことであります。

また、皆さんが所属されておられる商工会議所は、それぞれの地域における総合経済団体であります。浜松商工会議所では現在、「音と光と色の未来都市」づくりをテーマとする、浜松地域テクノポリス建設推進、また国立音楽堂建設の推進、浜名湖を中心としたリゾート整備など、コンベンション関連事業の推進等に、取り組んでおります。浜松地域の総合開発に商工会議所の持てる機能を十分に発揮し、諸事業を展開しているところでありますが、それぞれの事業推進には、必ず青年部の皆さんにも参画していただき、貴重なご意見をいただいております。中には、中心となって推進している事業もございます。

このように青年部の皆さんには地元商工会議所との連携をさらに深め、地域の活性化、産業、文化の発展にご尽力され、ご活躍されるよう期待いたします。

昭和63年度 運営研究会報告

北海道ブロック 滝川商工会議所青年部

北海道単独としては初めてのブロック運営研究会の開催決定以来、特別委員会を設置し、17回に及ぶ会議を経て、手づくりのあたたかい大会にしようと当日に臨みました。

準備・リハーサルは万全を期してはいるが、メンバーも多少緊張気味に集合し各々の担当ポジションの確認をして「仲間」を迎えました。

道内の仲間とは初対面ではあるが青年部という共通基盤があるので、すぐ仲間意識が生まれ和気あいあいの雰囲気になり、又わが町を良く知ってもらうために設けた地場産品コーナーでは、特産品を通じて互いに地域の話を交わし交流が図られた。分科会は統一テーマの他に、「まちづくりにおける青年部の役割」というテーマで熱心に討議され、全体会議での、商田商青連副会長の「青年部は企業や地域の後継者として自己研鑽に努めながら、地域全体との幅広い交流を持ち、意見を集約しあらる21世紀を目指したまちづくりプランを策定していかなければならない。そのためにも北海道ブロックの組織の拡大強化につとめ本大会を機として、この輪を全道に広げていく決意を新たにして行いたい。」との総括意見発表でまとめられた。その後記念講演、懇親会と続き、最後に椎原ブロック長の手締めにより来年の重想での再会を約し、不慣れで行き届かなかった面が多々あるにもかかわらず、ご苦労さん、ありがとうと言ってくれた道東の仲間に感謝しながら終了いたしました。

東北ブロック 長井商工会議所青年部

長井商工会議所青年部会(山形県)

花のまち「長井」に菊の花が色づいた11月10日、置賜会場のTAるびゃを会場に本大会が開催されました。東北と北海道ブロックの合同開催としては第一回目であり、東北各県より二百五十名余りの会員のご参加を得て従来にも増して盛会裡に終えることができました。

主管である当青年部会では「活き生き行こうTOHOKU21」の独自のスローガンを掲げ、すべての活動の礎である「個」(個々の人・店・会社・街)の活性化」をキーコンセプトにしました。初対面でたとえば個人の生き方を活かし方について話し合うというような事は困難ではありますが、コーディネーターやパネラーに出ていただいた会員の方々のご協力もあってそれぞれに実のある意見交換ができたものと確信しております。内容・進行など、私達なりに考え工夫をしてみたつもりではありましたが不備な点もあったかと思われます。その点はぜひ次回開催地の青森の皆様に一歩進めていただくことをお願いして報告といたします。

北陸信越ブロック 中野商工会議所青年部

「創ろう ふるさと 21世紀への縁」を大会スローガンに、第8回北陸・信越ブロック商工会議所青年部運営研究会を、北信濃の地中野市において開催しましたところ、300余名の皆様方に御参集をいただき、成功裡に挙行できましたことは、関係各位の格別なる御理解・御協力の賜物と心より感謝申し上げるとともに、厚く御礼申し上げるところでございます。

さて、最近の経済状況をみますと、産業・地域・企業間に格差はみられるものの、順調な回復基調をたどっておりますが、対外的には貿易摩擦、対外不均衡、為替相場など多くの不安定要素が内在しており、今後の経済見通しについては、決して楽観されるものではありません。

このような時期に次代を担う青年経済人が一堂に会し、相互交流を通じて相互の和を広げながら自己研鑽を積むこの研究会を、当青年部会議が主管させていただきましたことは、誠に意義深いことであります。

本研究会開催に際しては、実際の青年部活動に役立つ分科会を目指してその内容を検討し、各青年部にはアンケート調査を依頼するなど、内容の充実に努めました。実際の運営については、主管の飯山、松代、須坂の各青年部の絶大なる協力のもと、「今、我々は何を…」「ウォッチング青年部」の2分科会において、具体的な青年部活動について検討をしていただき、各青年部にお役に立つものになったものと確信いたしております。

最後になりましたが、当研究会が関係各位の協力により長野県において初めて開催することになり、運営に際しましては、何かと行き届かないところも多々あったかと思いますが、各青年部の友情に免じてお許しいただきたくお願い申し上げます。

関東ブロック 浜松商工会議所青年部

第8回商工会議所青年部、関東ブロック運営研究会は、ブロック内61会議所より、721名の皆様の参加を頂き、去る、9月16日(金)・17日(土)の両日、浜松青年部主管により開催させて頂きました。

[式典]

浜松交響楽団の中枢メンバーのバイオリンとピアノコンサートによる「音楽の玉手箱」にふさわしいオープニングセレモニーで開会。

[記念講演]

「地域と企業」―やらまいか魂を語る―と題した、鈴木自動車工業社長、鈴木修氏の講演は、浜松産業界の活力の秘密や国際化時代における協調精神の重要性を説いた。

[第一分科会]

「今、我々は何を!」をテーマに、関東ブロック61会議所青年部を対象に実施した、アンケート調査結果をもとに、青年部活動の今後のあり方について意見を交換した。

[第二分科会]

「外国人女性のホンネ〜日本人へ言いたい放題」と題して、米・仏・比3名の女性パネリストが、日本での生活について感想を述べ、参加者と質疑応答を交わす、対話式のパネルディスカッションを繰り広げた。

[第三分科会]

「新交通システムで地方都市は蘇る」をテーマに、浜松ゾーンシステム・中心商店街の活性化について講演、小売店の生き残りに参加者の奮起を促した。

[第四分科会]

「企業サバイバル時代を乗切れ」をテーマに、会場を浜松技術工業団地に移し、テクノポリス構想に関連した、2工場を視察、新しい工業への認識を深めた。

[懇親会]

浜松商業高校吹奏楽部の演奏パレードで開幕、友好商議の清水港かっぽれ、浜松祭り練り、太鼓会員によるお囃子等で明るい雰囲気で行なわれ、交流の輪をさらに広げた。

[エクスカーション]

翌日に行なわれ、「浜松、浜名湖めぐり」「ヤマハ・インダストリアルツアー」「名門・高級ゴルフ倶楽部でのコンペ」等々、多彩な趣向で開催され、参加者を堪能させた。

以上のごとく、好評のうちに終了、御礼申し上げます。

東海ブロック 津商工会議所青年部

これまで近畿と東海ブロックが合同で交互に開催してまいりました運営研究会が、今回からそれぞれ分離し、その第1回が9月13日当地三重県は津市において、日商、萩原商青連会長、山口青年部、神年度開催地北大阪青年部をはじめブロック内の青年部並びに商工会議所関係者300名余の参加を得て盛大に開催されました。

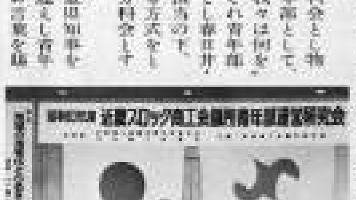
まず、分科会は3分科会とし物から心の時代の中で青年部として、青年経済人として「今我々は何を成」テーマとし、それぞれ青年部編・企業編・地域編」とし春日井、鈴鹿・関の各青年部の担当の下、参加者全員が事前出席する方式をとっていただき有意義な分科会とする形式で行われました。

全体会議は、田川三重県知事をはじめとする来賓をお迎えし青年部への励ましと期待のお言葉を賜り分科会報告、総括、次回開催地を始めとする発表がなされました。

記念講演は、東大寺の清水公照管長をお招きし、「翔ばなむ時代の企業経営」をテーマに開催されました。

締括りの懇親会は「津に生きて津を歩く、津に触れて」をテーマに縁日風に楽しく、お腹をさせていただきました津青年部の手作りのお祭りを味わっていただき喜んでいただけたのではと自負しております。

東海ブロック単独の第1回が参加頂いた皆様の御賛同で成功裡に終えることができましたことに御礼を申し上げ運営研究会の報告といたします。



近畿ブロック 奈良商工会議所青年部

「創ろう ふるさと21世紀への縁」をスローガンに、昭和63年度近畿ブロックの運営研究会が9月2日から2日間の日程で奈良県奈良大路町の県文化会館となら・シルクロード博会場を舞台に開催された。今回の大会より近畿と東海が分離し近畿単独としては第1回目の研究会となった。近畿各府県の24青年部の会員約300人が参加、地域社会の発展について意見交換、交流を深めた。

記念講演と分科会では、講師のイベント演出家・一柳昌紀氏が、「地域の活性化とふるさとづくり」に、学究館・シルク博総合プロデューサーが「港街道シルクロードに立つ」をテーマにそれぞれ約80分ずつ講演した。

このあと分科会では、第1分科会が「今夢ときらめき、今ひらめく時」をテーマに、シルク博の春日野、県大野両会場を見学、地方でのイベントの実例やノウハウについてつぶさに見て回った。

第2分科会は50人が出席して「ふるさとづくりにおける青年部の役割」をテーマに討議、講師の中村勝シルク博協会事業部長から適切なアドバイスを受けた。

エキスカーションでは、シルク博を見学、古都奈良を満喫した。

中国ブロック 鳥取商工会議所青年部

昭和63年度中国ブロック商工会議所青年部運営研究会は、去る9月4日(日)鳥取市の県社会教育福祉会館に中国ブロック23青年部より300名の参加者を迎え、記念講演・分科会・全体会議・懇親会の趣旨により、盛大に開催されました。

記念講演の講師には、エッソ石油(株)の八城政基社長をお招きし「国際化時代を迎え、地方経済人のあり方」をテーマにご講演いただきました。

講演の中で八城社長は「戦争の大国となった日本もかつては世界の一地方の小国であった。そこがここまで影響力を持つ様になったのも、日本の特性・個性を伸ばしてきたからだ」と強調され、「情報のアクセスは東京にいても地方にいても同じであり、何をすべきかが技術、今後地方にあっては、

く一番を目指すのではなく地方の特性を生かしながら、魅力ある街づくりをし、それを売り込むことが大切」と述べられました。

分科会では、第1分科会が「今我々は何を…」、第2分科会が「地域活性化とイベント」というそれぞれのテーマのもとに事例発表、パネルディスカッションでは大いに意見交換が行われました。

引き続き多数の来賓を迎えて行われた全体会議では、「企業活動を通じ、街に貢献するという姿勢こそが重要。地域が発展するためにはまず会員個々が活性化を」との総括によって締めくくられました。

懇親会は会場をホテルニューオータニ鳥取へ移し、アトラクションを交えながらの和やかな交流を行い、11月17・18日山口市で開催される全国大会での再会を約しながら散会しました。

四国ブロック　坂出商工会議所青年部

会長　洲崎隆美

6月4日、第九回の四国ブロック連絡研究会が当地坂出で行われた。当日は、日南、山口青年部の方々を含め四国各地より200名が集い盛大に研究会が開催された。

式典においては、森野香川県副知事をはじめ数多くの来賓を迎えた。また、分科会については、瀬戸大橋観光船を「瑠璃チャーター」し、瀬戸大橋を眺めながら、三分科会で研究するという趣向がこらされた。これにより、船に弱い人は罰として参加者からは大変好評を得た。記念講演においては、作家の弟子氏を招き「自信がなくても、人間、元気が大事だ」というタイトルにて講演会が開かれた。

6月5日のエキスカーションについては、Aコースとして、3月20日～8月31日まで開催された瀬戸大橋博覧会と四国の見学があった。またBコースはゴルフコースであり、四国で最も古いゴルフ場である高松カントリークラブ城山コースにて参加30名による熱戦が繰り広げられた。

九州ブロック　平戸商工会議所青年部

第八回九州ブロック商工会議所青年部連絡研究会は、平戸商工会議所青年部の主管により八月二十六日(金)、平戸市、平戸文化センターを中心に行なわれた。

七〇〇名という思いがけず沢山の登録受付にはじまり、我侭会頭の力強いあいさつ、ほほえましいBGMつきの参加青年部紹介と、式典もとどこおりなく進み、午後の分科会では統一テーマによるパネルセッション、六名のパネラーとキレのいいコーディネーターを迎えてのパネルディスカッション"九州の観光を考える"とともに予定の時刻をすぎるほどの熱心な討議が行なわれた。

部会長会議において満場一致で別府市での次期開催が決定し、全体会において後藤会長以下、別府商工会議所青年部会員による力強いアピールがなされた。

元新日鉄ラグビー部監督の森重隆氏を講師に迎えての記念講演は氏の試合運びの如くエネルギッシュ・パワフルに展開し、盛り沢山の懇親会へと出会いの一日はすぎていった。

若きオーナー　"わかるよりやれる"人材育成

（○○商工会議所青年部）

大育情報ビジネス専門学校　理事長　石川正一

専修学校は比較的新しい学校制度であり学校教育法で定められた学校です。この制度が発足したのは昭和51年のことで12年経ました。しかしこの学校制度については、教育関係者のあいだでさえも、まだかならずしも十分には理解されていない面が多いように思われます。

学校教育法では、専修学校の目的を「職業若しくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図る」（第82条の2）こととさだめています。これによって専修学校は、①職業教育から、②家政その他の実際生活に必要な知識・技術・技能の取得、および③教養教育に至るまで、幅ひろい範囲の教育を包含しており、専修学校の目的、修業年限、授業時数、課程の種類、教員、施設、設備などについては、学校教育法の条文および専修学校設置基準で定められています。

本校は、教育基本法の精神に基づいて、公務員受験対策を始めとする諸国家試験受験対策、情報処理、会計実務、経営実務、医療実務、観光実務、秘書実務等に関する技術及び理論を組織的に教授することにより、職業若しくは実際生活に必要な能力を育成するとともに社会文化の向上に寄与できる優秀な人材の育成を図ることを目的とし、昭和63年に設立されました。

高度情報化時代や国際化社会の到来によって、社会は大きな変化をとげ始め、実力社会の時代へと確実に変化しています。このような社会の中で、より創造的な頭脳、より専門的な技術、そして先進の機器を駆使できる技能を持った人材こそ、時代を担うスペシャリストと言えるでしょう。本校はそうした時代の流れを的確にとらえ、常に新しい感覚でカリキュラムを組み、社会のニーズに対応できる実践的な人材を育成する本格的な専門学校であります。創立以来、本校は教育内容の充実と施設の拡充などに職員が一体となって努力し、専門課程（高卒2年）10科、及び併設校の大育ビジネス高等専修学校に大学受験資格を付与される高等課程（中卒3年）2科を設け、現在は、700余名の在籍者を有し、経営陣、教授陣等とともに専修学校としてトップレベルの水準を誇っています。また、本校の大きな特色は、学生諸君を視野の狭い職人で終わらせないために、人間形成を指導する教育を基盤として、現代の思想や倫理、経済社会の機構を充分理解し、未来に向って確実に成長できる人材育成をしていることです。

本校の卒業生は、求人数の多い県内のきびしい環境のなか、各分野で活躍しており、卒業生の就職については専任の担当者を置き、就職先の開拓を行い、本人の適性と希望を配慮して、適正な就職指導と斡旋をきめ細かに行っています。本校に寄せられる求人は県内及び県外の優良企業からのものが多く、卒業生の就職先も多岐にわたっています。

職業教育のめざす人間像は、仕事を単に頭で知っているだけでなくて、実際に仕事ができる人間でなければなりません。「わかる人間」であるだけではダメで、「やれる人間」であることが必要とされるのです。

会報紙コンクール作品　青年部のあり方懸賞論文　募集

商青連ではこのたび、全国商工会議所青年部連合会の明文化規準を公示し、各商工会議所青年部で発行する会報紙（誌）を対象とした「全国商工会議所青年部会報コンクール」と、「懸賞論文募集」を次の要項で実施することになりました。奮って応募ください。

会報コンクール　要項

【対象作品】商工会議所青年部広報紙（誌）（新聞、雑誌など型は問わない）

【応募方法】会議所1種類とし、該当する応募作品は最近号を1部と過去1年間の自信作を一部送付すること。

【応募締切】昭和63年11月30日（水）（必着）

【審査発表】昭和64年2月10日に東京で開催される第十回会員総会席上にて発表

【賞】最優秀賞一点、優秀賞二点、佳作若干

懸賞論文　要項

【テーマ】「地域の産業活性化に果たす青年部の役割」または「魅力ある青年部活動」

【応募資格】商青連会員青年部の所属会員

【字数】四〇〇字詰原稿用紙7～8枚（三〇〇〇字程度、横書き）

【締切】昭和63年11月30日（水）（必着）

【入選発表】昭和64年2月（2月10日に開催する第10回会員総会で発表、表彰するとともに、「青年部の今後のあり方（報告書）」に掲載する）

【賞品等】
最優秀作一点　賞状及び記念品（5万円相当）
優秀作二点　賞状及び記念品（1万円相当）
入選五点　賞状及び記念品（5千円相当）

【審査員】商青連会長はじめ各委員会委員長、総務委員、顧問

【問い合わせ・送付先】〒100東京都千代田区丸の内3-2-2　日本商工会議所内　全国商工会議所青年部連合会「会報コンクール」係、「懸賞論文」係　担当・菊地

商工会議所青年部の設置状況

[illegible]

ブロック名	青年部数（会議所数）	設置率	設置会議所名
北海道	11（40）	27.5%	[illegible]
東北	[illegible]	[illegible]	[illegible]
北陸信越	[illegible]	[illegible]	[illegible]
関東	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東海	[illegible]	[illegible]	[illegible]
近畿	[illegible]	[illegible]	[illegible]
中国	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四国	[illegible]	[illegible]	[illegible]
九州	[illegible]	[illegible]	[illegible]
合計	[illegible]	[illegible]	[illegible]

商青連顧問プロフィール

波多野敦（はたのあつし）氏

今年3月12日の第27回役員会で、正式に顧問に就任。商青連発足から数えて第3代目となる。

顧問になってからの半年を振り返り、「商青連は本年で、58年の設立から満5年という節目の年を迎えたのは喜ばしい限りだ。また、これを機に、青年部や商青連の今後のあり方について精力的に検討されていることは、誠に心強い」と、商工会議所活動の一翼を担う若い力への期待を寄せる。

昭和35年日本商工会議所入所、57年常務理事、61年専務理事を経て、今年の人事異動で理事・中小企業振興部長となる。趣味は歴史散策。静岡県富士市出身、56歳。

編集後記

谷川博文

お隣りの韓国では、一六〇ヶ国が参加した史上最大のオリンピックも大成功に終わったが国内では、天皇陛下の御病気で、イベント、お祭り騒ぎが、自粛されている。一日も早く、お元気になられますよう、お祈り申し上げます。皆さんが待ち望んでいる「翔生」5号は思うように編集作業が進まず発行日が大幅に遅れてしまい、大変申し訳なく思っています。本紙を借りて深くお詫び申し上げます。

今回の編集を通して、各地の青年部の活動が地域の特性を活かした事業展開を行なっている事を知り、ますますのご活躍されることを希望します。また、本紙発行に際してご多忙のところ、ご投稿いただきました皆様に、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。